

## 「フランス革命と日本・アジアの近代化」プロジェクト 世界の近代化に与えた役割を5講師が再評価

文部科学省のオープン・リサーチ・センター整備事業に選定されている「フランス革命と日本・アジアの近代化」プロジェクトの第3回国際シンポジウム「21世紀におけるフランス革命研究の現状と課題」が6月18、19の両日、神田キャンパスで開催され、討論が展開された。

近年、フランス革命は否定的な側面が強調されがちだが、シンポでは、革命の過程における諸事件が与えた意味を考え、その後の世界政治、文化、軍事などの理念形成に主要な役割を果たしていることなどが5人の研究者から報告された。



講演するハント教授

講演者は以下のとおり。

- ◇リン・ハント(カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授)
- ◇ジャン＝クレマン・マルタン(パリ第一大学教授)
- ◇マティアス・ミッデル(ライプツィヒ大学高等研究センター所長)
- ◇ロイド・クレマー(ノースカロライナ大学チャペルヒル校歴史学部長)
- ◇浜忠雄(北海学園大学人文学部教授)

同時開催の「絵画と史料にみるフランス革命」展(図書館主催)にも多数の見学者が訪れた。

### M・ベルンシュタイン文庫を見学

シンポジウムに先立ち、6月17日、講演者4氏が生田キャンパスの図書館を訪れ、ミシェル・ベルンシュタイン文庫を見学した。フランス革命期に刊行、記録された貴重な原史料を手にし、近江吉明教授を交えて活発な議論が交わされた＝写真。



## 育友会 支部懇談会

### 全国65会場で開催

神田・生田両キャンパスでも

育友会(受川純一郎会長)の最大事業、支部懇談会が7月30日(土)から、全国の65会場で開催される。

学長・理事長をはじめ多数の教職員が各地域に出張し、ご父母と膝を交え、学業・学生生活・留学・就職等について懇談する支部懇談会は、大学側からの情報提供のみならず、ご父母同士の情報交換の場としても毎年、好評を博している。

今年度は川崎・藤沢支部が生田キャンパスで8月21日(日)に、東京A・B・C支部が、神田キャンパスで東京圏合同支部懇談会として9月11日(日)に開催。個別相談のほか、学長、理事長からのメッセージや、リレハンメル五輪スピードスケート銅メダリストの堀井学氏(平6商)の講演も予定されており、多くの参加を呼びかけている(A・B・C支部以外の会員の方も参加可能)。問い合わせは育友会事務局【電話03(3265)6299】まで。

#### 第6回育友会奨励賞募集

育友会では学生生活を活性化するため奨励制度を設けている。第6回の募集期間は10月1日(土)～22日(土)事務局必着。詳細は学内掲示及び育友会ホームページで。



## 地域と大学を結ぶセミナー『成果主義人事』

### 『ひと基準』人事から『仕事基準』人事へ

第28回地域と大学を結ぶセミナー「成果主義人事—その真の狙いと企業の実践」(経営学部・経営研究所共催)が6月25日、生田キャンパスで約200人の参加者を集めて開かれた。

廣石忠司教授が基調講演で「『個』を尊重する現代において『ひと基準』人事から『仕事基準』人事へと変わってきている。それが本来の『成果主義』であり、経営戦略が明確で、経営トップ及び人事と従業員との間に信頼関係が存在しなければ成功しない」と論じた。



3氏の講演を熱心に聴講する満員の出席者

実践編として、多様な雇用形態を開発し「個人と企業がお互いに自立し合い、尊重し合う」関係を目指す、リクルート人材マネジメント室プランナー工代(くだい)将章氏と、「自律した『個』をまとめる組織原理と人材マネジメント」を具体化しているギャップジャパン人事部長の中島豊氏が講演。両氏とも成果主義人事における「人を育てる」大切さを強調した。パネルディスカッションでは「人事は何のためにあるのか？」をテーマに活発な議論が展開された。

## 瀬下博之教授が学位を取得

瀬下博之商学部教授＝写真＝が3月8日付で慶應義塾大学から博士（経済学）の学位を授与された。学位論文は「不動産と債権の法と経済学」。

## 「体験授業フェア」を開催

進学希望者ら1600人が来学

授業を通じて大学で学ぶ意義や雰囲気に触れ、進路選択をしてみようという「体験授業フェア」が6月26日、生田キャンパスで実施され、進学希望者ら約1600人が来学、興味を持つ講義を熱心に受講した。

78講座の模擬授業のほか、特別企画として「経済系3学部の違いについて」と、「経営学部入試の選択科目『情報』の紹介」の説明会も行われた。



田口文夫法学部助教授の授業に高校生多数が臨んだ